

劫初ごふしよより作りいとなむ殿堂てんどうに

われも黄金こがねの釘くぎひとつ打つ

歌 意

この世の初め、天地開闢てんちかひびくよりこの方、営々として築き上げられてきた芸術・文学の大殿堂に私も輝かしい黄金の釘をしっかりと打ち込みました。

掲出歌集 『草の夢』大正11（1922）年9月（巻頭）
初 出 「萬朝報」大正11年1月21日（晶子44歳）



- 所在地 本願寺塚別院の境内（堺区神明町東3丁1-10）
阪堺線神明町駅下車東へ徒歩4分
- 建立 昭和43年5月26日 与謝野晶子の会
- デザイン 白石正義
- 書 晶子自筆
- 連絡先 本願寺塚別院 072-232-4417

「与謝野晶子の会」が昭和42（1967）年にNHKと共催した「みだれ髪展」のあと、歌碑建立が計画された。

その場所は、鉄幹の父与謝野礼蔵（西本願寺派の僧）と縁があり、また彫刻家の白石正義氏や佐竹正雄氏が本願寺塚別院輪番と知己の間柄でもあった本願寺塚別院に決定した。

歌は、戦災にもあわなかったこの豪壮な本堂前にふさわしいものということで、晶子にとって最も創作活動の充実期の歌が選ばれた。自分の才能のすべてを自覚した自信にあふれた歌である。

※塚別院は室町時代に塚御坊として、蓮如も布教活動を行ったところである。また明治4年から14年までここが堺県庁の所在地であった。当初の堺県は旧天領地だけだったが、やがて河内、和泉、大和などを合併して近畿地方でも有数の大きな県になった。明治14年大阪府に併合される。